



釉掛けの方法は1種類だけでなく、たくさんあります。刷毛ぬり、ブラシ掛け、なすり付け、粉を振りかける、色々考えられます。

私が普段している方法を紹介しますので、皆さんも自分独特のやり方を探し出して下さい。

1. 手で振りかける



釉を薄く全体に刷毛ぬり。釉をよく混ぜ、バランスを見ながら指から流し掛ける。



黄瀬戸釉、炭還元焼成。釉の薄いところは黒く、厚いところはビードロになる。

※炭還元焼成とは、木炭を窯、サヤに入れ密閉する焼き方です。特徴は焼成が終わり冷めるまで窯内部を還元状態に保つ。鉄分を含む粘土と釉が酸化にもどることが無いので、青黒く焼き上がります。還元落としとも言います。

2. 釉を削り取る



釉掛け後、指で削り取る。



緋色志野釉、還元焼成。



マット黄瀬戸、還元焼成。

3. 流し掛け



長石粒入青磁釉、炭化焼成。
作品に釉を載せ、振り切るように流すとスピード感が出ます。

4. その他の掛け方



ブラシで釉を飛ばす。ブラシとザルで釉を飛ばす。粉末をふるう。粉末をなすり付ける。



釉で刷毛目。



ブラシ掛、松灰酸化焼成。ふるい掛、松灰酸化焼成。



なすり付、藁灰釉還元焼成。 釉で刷毛目、ルリ釉 8 号釉酸化焼成。